

行事予定

2022(令和4)年5月～8月

【特別展／企画展】

2022年 3月5日(土)～5月31日(火)

2021年度企画展Ⅱ
「創られたキリスト像(イメージ) 排耶書と実録のなかのキリスト」
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室

2022年 4月21日(木)～10月頃

相互貸借特集展示XVIII
「絵図から見る島原・天草一揆と幕府軍」
[場所] 西南学院大学博物館1階常設展示室
[主催] 南島原市教育委員会

2022年 4月25日(月)～7月下旬

産官学連携サテライト展示XXI
「異国を知る：海外早わかり！江戸時代の「異国」解説書たち」
[場所] 南島原市原城図書館

2022年 6月6日(月)～8月8日(月)

2022年度企画展I
「印刷文化の黎明 インキュナブラからキリスト版まで」
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室

【イベント】

2022年 5月21日(土)

せいなんこどもワークショップ
「考古学体験！拓本をとってみよう！」
[時間] 14:00～16:00
[場所] 西南コミュニティーセンター
[対象] 小学校3年生以上
[定員] 少人数(定員になり次第締め切り)
[参加費] 無料(要事前申し込み)

2022年 6月6日(月)～8月8日(月)

企画展関連常設ワークショップ
「活版印刷機で印刷体験!!」
[場所] 西南学院大学博物館1階
[参加費] 無料
[協力] 文林堂

2022年 7月2日(土)

企画展関連公開講座(印刷博物館 出前授業)
「印刷の世界史」
[時間] 14:00～15:30
[場所] 西南コミュニティーセンター1階ホール
[対象] 一般
[定員] 80名(定員になり次第締め切り)
[参加費] 無料(要事前申し込み)
[協力] 印刷博物館

行事予定は日程、内容等が変更する場合がございます。
各イベントの詳細につきましては博物館ホームページをご確認ください。

西南学院大学博物館 SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日 / 毎週日曜日、夏季休暇[8/10～8/16]、キリスト降誕祭[12/25]、
年末・年始[12/28～1/5]、そのほか臨時休館あり

入館料 / 無料

[seinamuseum](https://www.facebook.com/seinamuseum) [@seinan_museum](https://twitter.com/seinan_museum) [@seinan_museum](https://www.instagram.com/seinan_museum)

来館者掲示板

【来館者の言葉】

西新に越してきて6ヶ月が経ちましたが、家の近くにこういった文化・芸術に触れる場所があり感動しています。夫はカトリック信者なので、今回は夫も連れてきたいです。(2021年 11月)

キリスト教についての博物館展示を見るのは初めてだったので楽しめました。キリスト教の知識があまりなくてもビジュアルで楽しく学べるのはカトリックの考えに近く、博物館でこのような体験ができるのは面白いと感じました。(2021年 12月)

むずかしいことがいっぱいあるけど、みているとおもしろくおもえたのでまたこれら土曜日はここに来たいです。(2021年 12月)



コロナ禍のなかにおいても、老若男女問わず足をお運びいただきありがとうございます。3月5日(土)からは、2021年度企画展Ⅱ「創られたキリスト像(イメージ) 排耶書と実録のなかのキリスト」が開催しています。皆様のご来館を心よりお待ちしております。
学芸研究員 鬼束 芽依

編集後記

2022年度はさまざまな不安が募る中スタートしましたね。このような情勢のなかで、博物館、そして博物館に関わる人間には何が出来るのかと考えています。持論ですが、こんな時代であるからこそ、歴史や異文化、外国語などを学ぶことが重要だと考えています。そして、博物館はそういった学びのきっかけの場になればと考えています。2022年度も皆様のご来館をお待ちしております。

学芸研究員 鬼束 芽依

アクセスマップ ACCESS MAP



地下鉄	福岡空港 → 西新駅下車...約17分 博多駅 → 西新駅下車...約12分 天神 → 西新駅下車...約8分 ※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分
バス	博多駅バスセンター → 修猷館前...約35分 天神 → 修猷館前...約20分 ※修猷館前バス停から徒歩5分
タクシー	福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約25分 博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約20分 天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約15分

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume **45** 2022.5

西南学院大学

所蔵品紹介 十字文鐔

大学博物館のお仕事① 「大学博物館ってなに？」

博物館通信 「博物館ドージャー記念室ニュース展示(大学チャペル関連資料群)」を開催 ほか

展覧会紹介 「印刷文化の黎明 —インキュナブラからキリスト版まで—」ほか



所蔵品紹介 特集

十字文鐔

日本 / 制作年不詳(近世か) / 鉄製 / 縦78mm×横78mm×厚さ4mm

本資料は、鉄製の丸形の刀鐔です(以下の鐔の部分名称・用語は、小笠原信夫1975『鐔(つば)』保育社を参考にします)。中央に刀身を通した茎櫃の孔、その右側に鬚を整える筈を通した州浜形の筈櫃の孔があります。表側のその周囲には、右上部に三日月・右下部に瓢箪が、それぞれ短い金線を組みあわせた金象嵌で表現されています。象嵌の表面細部には、整形の際の微細な擦痕が残っています。地金は磨地で、経年変化でできた斑状の鉄錆がみられます。

茎櫃の棟側には刀身を鐔に固定調整するために補った銅の責金が残っています。責金の縁は、おそらく刀身の重量によって少し摩滅変形しています。茎櫃表面の刃先側にはいくつかの小さな剥落痕が観察できます。これらは、この鐔が実際に刀に装着使用された時の痕跡のようにも見えます。

本資料のもっとも特徴的である表面左側に透彫で表現された意匠は、一種の「花十字文」のように思われます。花十字文は、キリスト教墓碑などにもよくみられます(大石一久編2012『日本キリスト教墓碑総覧』南島原市教育委員会)。十字架文様はキリスト教の象徴として鐔を含む様々な物品に用いられてきましたが、日本では同種の十字文様がキリスト教伝来以前から使われています(松田毅一1969『キリスト教史実と美術』淡文社)。キリスト教は西洋との交流でもたらされ、その際



日本に入ってきた数々の西洋文化の影響で南蛮文化が生まれました。そのため、「南蛮物」とキリスト教遺物を判別することは非常に難しいです(今野春樹2013『キリスト教考古学』ニューサイエンス社)。

鐔には武士それぞれの様々な願いや意味が込められており、その模様は多岐にわたります。そのため、鐔に武士の信仰の証となる意匠が伴うことは珍しくありませんでした。しかし、明治時代に土産物用として偽造されたキリスト教遺物も多く、本物と偽造品の判別は専門家さえ困難です(H.チースリク1995『キリスト教史考』聖母文庫)。また、本資料の意匠は花十字文ではなく、国内では近代になって盛んに使われたゴシック様式の十字架文様にやや似ているともいえます。この資料もさらなる研究が必要です。

学芸調査員 相江なぎさ

SEINAN GAKUIN 大学博物館のお仕事 I

大学博物館ってなに？

日本は5700館を超える博物館があるとされ、世界有数の博物館大国でもあります。博物館といってもその館種はさまざまです。日本の博物館の半分は歴史館で、次いで美術館、郷土館、そして動物園や水族館も博物館になります。そのなかで大学に付随する大学博物館は全国に200館ほどあるといわれています。

博物館のお仕事は大きく分けて3つあります。それは博物館資料の「収集・保存」「調査・研究」「展示・教育」です。一般に目に触れやすいのは「展示・教育」のお仕事でしょう。博物館資料を収集し、後世にのこすために適切に保存すること。調査研究の成果を、展示や教育活動などを通じて発信すること。博物館の大切な役割のひとつは、人々の豊かな学びの場となることなのです。

大学博物館のお仕事もこの三本柱が基本です。ただし大学博物館の資料は、大学での学術研究により収集、生成された学術標本が主であり、これは地域の博物館資料には見られない特徴をもちえます。たとえば西南学院大学博物館の資料は、キリスト教主義の教育にかかせない聖書の写本だったり、大学教員が長い年月をかけて蒐集した貴重な器物だったりなどです。本来であれば、大学内での閉じられた環境でしか閲覧できない資料を、社会に開かれた窓口として、地域の人々の生涯学習に役立てられるようにするのが大学博物館の役割でもあるのです。

本シリーズはそんな普通の博物館とはちょっと違った「大学博物館」のお仕事を紹介していきます。

学芸研究員 山尾 彩香



博物館ができる前から収集されてきた資料

博物館通信

2022年1月から5月にかけて行われた博物館活動の中からいくつかをご紹介します。

西南学院大学博物館では、2022年3月から5月にかけて、企画展「創られたキリシタン像(イメージ) 排耶書と実録のなかのキリシタン」を開催中です。禁教期の人々による「キリシタン」イメージの形成や、その変化について資料を通してご紹介します。ご来館いただいた方からは、「創られた」キリシタンという新しい視点から見ることができて良かったというお声もいただきました。今後も皆様のご来館を心よりお待ちしております。

学芸調査員 山本 恵梨



2021年9月～2022年
博物館ドージャー記念室ニュース展示
「大学チャペル関連資料群」を展示中です。

2021年10月26日(火)～2022年4月
官学連携サテライト展示
令和3年度南島原市・西南学院大学博物館相互貸借展示
「島原・天草一揆を記す一硯と矢文」を開催しました。

2021年10月27日(水)～2022年3月31日(木)
赤煉瓦通信特集展示「西南学院アート探訪」を展示しました。

2021年12月14日(火)～2022年5月14日(土)
博物館常設展ニュース展示「ラテン語聖書写本零葉」を展示しました。

2022年3月5日(土)～5月31日(火)
2021年度企画展
「創られたキリシタン像(イメージ) 排耶書と実録のなかのキリシタン」を開催中です。

展覧会紹介

開催中

2021年度西南学院大学博物館企画展II

創られたキリシタン像(イメージ)

— 排耶書と実録のなかのキリシタン —

会期/2022年3月5日(土)～5月31日(火)

会場/西南学院大学博物館1階特別展示室

主催/西南学院大学博物館

江戸時代、幕府の禁教政策にともない「排耶書」とよばれる反キリスト教(反キリシタン)書がつけられた。排耶書は仏僧や儒者の視点からキリスト教の教理に反論をおこなった書物で、教理的内容の強いものであった。しかしながら、キリシタンは一般大衆にも広まっていたため、物語性のある通俗的な排耶書や、キリシタンを題材とした実録小説がつけられるようになる。それらの物語は、論理的正確さよりも物語の面白さで読み手を引き付けようとしたため、教理的内容が削られ、虚構を織り交ぜながら変化していった。

明治時代になり、キリスト教の信仰が許されるようになると、禁教政策は過去のものとして扱われた。禁教期に没収された信仰具やキリシタン取締りに使用されていた踏絵は、博物館で資料として展示される。そして、大衆のキリシタンに対する興味が大きくなると、「キリシタン遺物」とされるものが日本各地でつくり、出廻った。

本展覧会では、禁教期につけられた排耶書とキリシタン実録、明治時代以降につけられた「キリシタン遺物」をとらえて、禁教期から現代までの人々がいだいたキリシタン像(イメージ)の変化をたどる。



展覧会紹介

次回開催

2022年度西南学院大学博物館企画展I

印刷文化の黎明

— インキュナブラからキリシタン版まで —

会期/2022年6月6日(月)～8月8日(月)

会場/西南学院大学博物館1階特別展示室

主催/西南学院大学博物館

協力/文林堂 印刷博物館 西南学院大学図書館

15世紀中頃、マインツの金工であったヨハネス・グーテンベルクが活版印刷術を完成させて以降、1500年までに印刷された書物を「インキュナブラ incunabula」と呼ぶ。インキュナブラとは、「揺籃、出生地」などを意味するラテン語で、18世紀末には活版印刷術の揺籃期にある書物を指すようになった。インキュナブラは今日の印刷本の祖先であるが、挿絵や装飾が手作業で描き込まれるなど、印刷本と写本の両方の性質を併せ持っていた。

活版印刷術は、印刷職人の移動に伴ってヨーロッパの諸都市に伝播し、1500年までに約250の都市に1100から1200の印刷所が開設された。さらに、1590(天正18)年には、キリスト教布教のため来日したイエズス会の巡察師アレックスandro・ヴァリニャーノの提起によって西洋活版印刷術が日本にもたらされることとなった。こうした印刷技術の伝播は、より廉価に、大量の書物を刊行することを可能とし、読者層の拡大をもたらした。

本展覧会では、かつての面影を残しながらも変化していく書物のすがたを通し、西洋印刷文化の黎明期に迫る。



福音書零葉
1479年/ヴェネツィア/ニコラ・ジャンソン印行
紙に活版、手彩、ギルディング/西南学院大学博物館蔵